

受賞作品

健康政策の経済分析

レセプトデータによる評価と提言

岩本康志、鈴木亘、両角良子、湯田道生 著
東京大学出版会 224 ページ、4500 円（税別）



書評

医療・介護への影響 緻密に

政策研究大学院大学特別教授 井堀利宏

日本の財政赤字が累増している大きな要因は社会保障歳出の増大である。その中で今後も著しい増大が見込まれているのが医療・介護である。

健康政策が医療・介護費にどの程度影響するかという問いに正面から取り組んだ本書は、福井県における医療・介護分野のマイクロデータを用いて総合的なパネルデータを構築、健康政策について様々な研究や政策評価を行っている。

本書の強みは福井県の協力を得たレセプト（診療報酬明細書）の個票データである。医療保険と介護保険それぞれのレセプトだけでなく、健康診断や保健指導のデータも接合して総合データベースをつくっており、こうした緻密なデータ構築による分析は学術的に貴重で、高く評価できる。

著者らの実証分析によると、介護予防給付では要介護の悪化を食い止める効果が認められる一方、特定健康診査・特定保健指導では改善効果が相当限定的である。多額の公費を投じているにもかかわらず、特定保健指導の効果が乏しいという結果は政策的含意も大きく、今後の健康政策のあり方を考える上で貴重な材料を提供している。

福井県に限定したデータという制約があるため、日本全体への一般性がどこまであるかという留保条件は付くにせよ、医療・介護分野で経済学の理論と実証分析に基づいて具体的な政策提言を導いた本書の研究成果は今後、他地域で「根拠に基づく政策」を検証する際の先駆的な業績といえるだろう。